

宇都宮市総合計画市民懇談会 地域共生社会創出分科会

# 地域共生社会創出プロジェクトについて

## 【議事概要】

「スーパースマートシティ」を構成する「地域共生社会」の目指す姿と、その実現に向けた「まちづくり好循環プロジェクト」である「地域共生社会創出プロジェクト」の内容等について協議するもの

令和4年11月15日  
総合政策部 政策審議室

## ■ 報告事項

1. 改定基本計画の策定について（P3~6）
2. 「まちづくり好循環プロジェクト（以下「プロジェクト」という。）」の構築について（P7~13）

## ■ 協議事項

3. 地域共生社会における「市民生活の姿」の構築について（P14~16）
4. プロジェクト全体像の作成について（P17~27）

## ■ 協議事項

5. 今後のスケジュールについて（P28）

（紙面配布資料）

【資料1別紙1】取組テーマ等の導出について

【資料1別紙2】地域共生社会創出プロジェクトの全体像について

## 改定基本計画策定のポイント

- ① 「スーパースマートシティ」の実現を図る計画
- ② 分野横断的施策や各政策分野をけん引する事業に重点化した計画

# 1 改定基本計画の策定について

「スーパースマートシティ」とは？

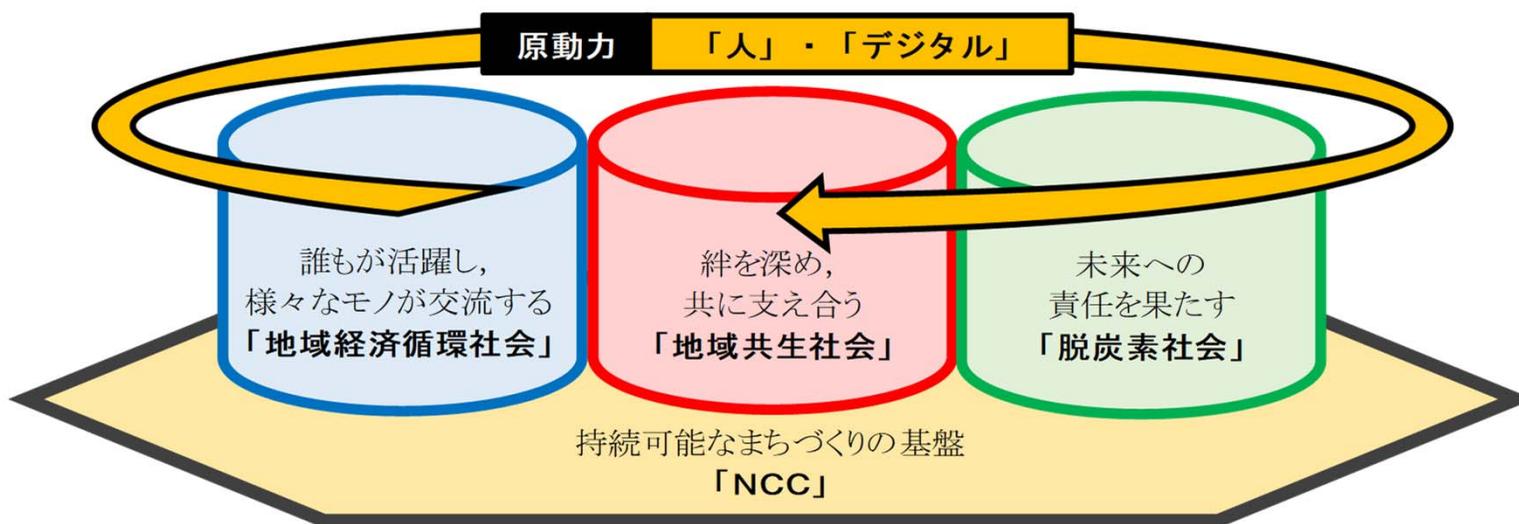
子どもから高齢者まで，誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ，**夢や希望がかなうまち**

「将来のうつのみや像（都市像）」を実現し，SDGsの達成に貢献していくため，**概ね2030年頃を見据えた具体的なまちの姿**として，「スーパースマートシティ」の実現を目指していく

# 1 改定基本計画の策定について

## 具体的な「スーパースマートシティ」の構成イメージ

SDGsの達成に向けて

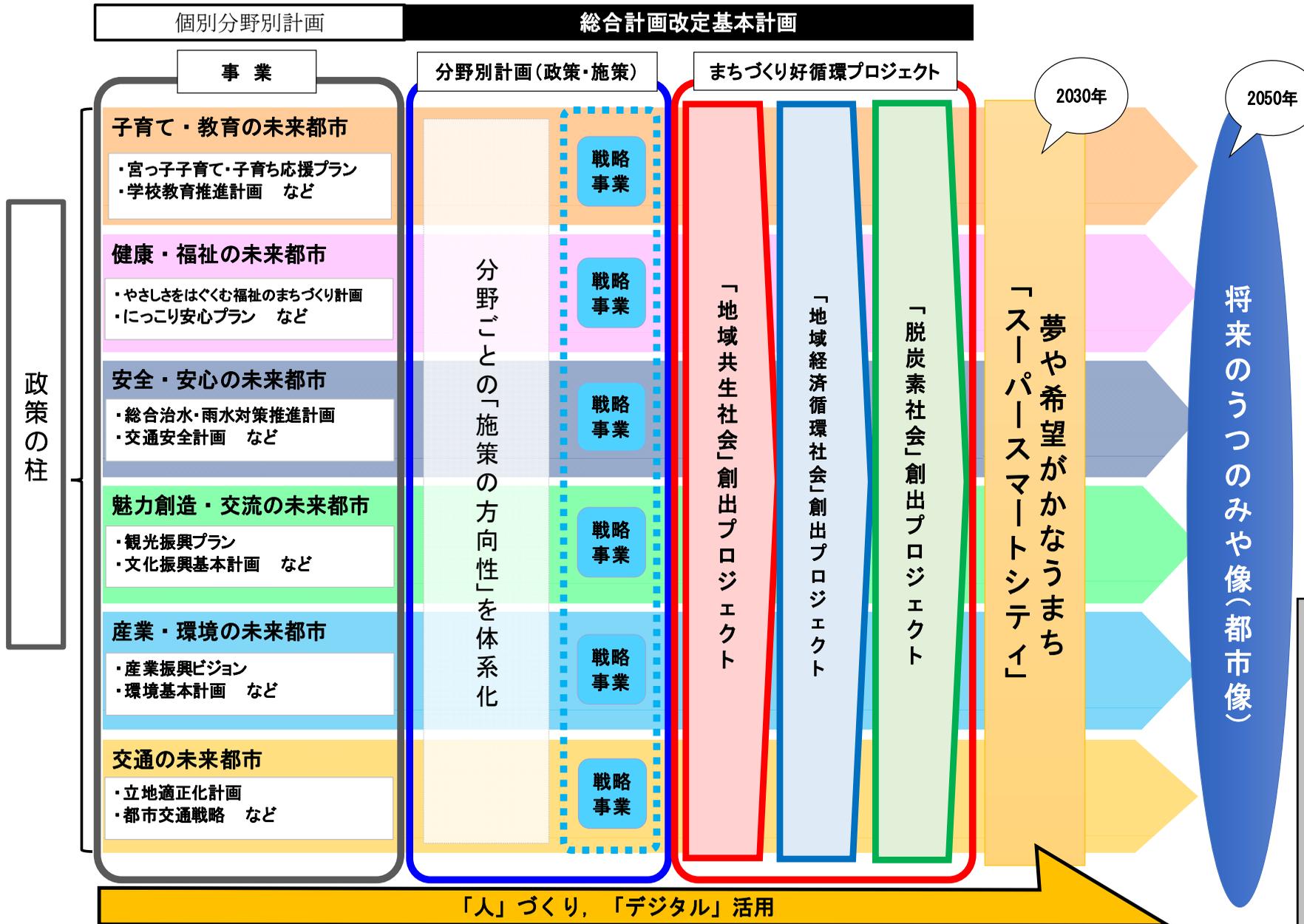


持続可能な都市構造である「NCC」を基盤としながら、「地域共生社会」（社会）、「地域経済循環社会」（経済）、「脱炭素社会」（環境）の3つの構成要素が融合し、「人」と「デジタル」を原動力に発展を続けられるまち

**NCC × SDGs の3側面**

**SDGsの達成にも貢献**

# 1 改定基本計画の策定について



- 分野別計画については、引き続き、基本構想に掲げる「まちづくりの基本方向（6つの未来都市）」により構成する。
- 複雑化・多様化する課題や市民ニーズに効果的に対応し、まちづくりを加速化していくため、「スーパースマートシティ」を構成する「3つの社会」ごとに「まちづくり好循環プロジェクト」を設定する。

令和4年度の市民懇談会で議論

- スーパースマートシティを構成する「3つの社会」が目指すべき社会像について
- 「3つの社会」の実現に向けて必要となる分野横断的取組（まちづくり好循環プロジェクト）について

## 2. プロジェクトの構築について

### ○ 現行計画におけるプロジェクトの位置づけ

「まちづくりの好循環」の加速化を図ることで、「将来のうつのみや像（都市像）」の実現を目指し、特に効果が高い先導的な取組や複数の分野の連携が不可欠な横断的な取組、他の分野への波及効果が高い取組などをまとめたもの。



● 「まちづくりの好循環」について  
基本構想の「まちづくりの基本方向」で示す「6つの未来都市」の実現に向けた取組が密接につながり、相互に連携・補完し、人づくりとまちづくりを一体的に進めることで、相互の未来都市の実現に好影響をもたらすこと

## 2. プロジェクトの構築について

### ○ 現行計画における3つのプロジェクトについて

	プロジェクト名	内容	取組テーマ
1	(輝く人の和) NCCが支える共生社会創出プロジェクト	ネットワーク型コンパクトシティ（NCC）の形成による都市構造の強みを生かし、少子・超高齢社会においても、高齢者・障がい者・子どもなど全ての人が暮らしやすく、生きがいを持った「地域共生社会」を創出する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステムの推進</li> <li>・子どもを守り育てる社会づくり</li> <li>・誰もが安心して移動できる社会づくり</li> </ul>
2	(つながるまちの環) ICTで暮らしもまちも元気プロジェクト	生産年齢人口の減少下においても、ICTの恩恵を受けられる環境を構築することで、AI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）、ドローン等の技術が人やモノの活動をサポートし、様々な分野における市民の身近な暮らしの利便性向上や活力あるまちの形成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの恩恵を享受できる環境の構築</li> <li>・市民の身近な生活の利便性向上</li> <li>・新たなサービス創出を通じた産業の振興</li> </ul>
3	(魅力と夢の輪) ブランド発掘・創造・発信プロジェクト	少子化が進行する中、若い世代の流出を抑制するため、市民が誇りを持って住み続け、さらに、市外の人たちに対し積極的に本市の良さをPRし、本市が人や企業に選ばれるまちとなるよう、誰もが活躍できる社会を創出するとともに、都市の魅力を磨き上げ、宇都宮ブランドの発掘・創造・発信を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大谷、LRT、自転車のまちなど地域資源のフル活用</li> <li>・宇都宮暮らしの魅力向上・発信による移住・定住の促進</li> <li>・女性が活躍できる社会の構築</li> </ul>

## 2. プロジェクトの構築について

### ○ プロジェクト検討に当たっての基本的な考え方

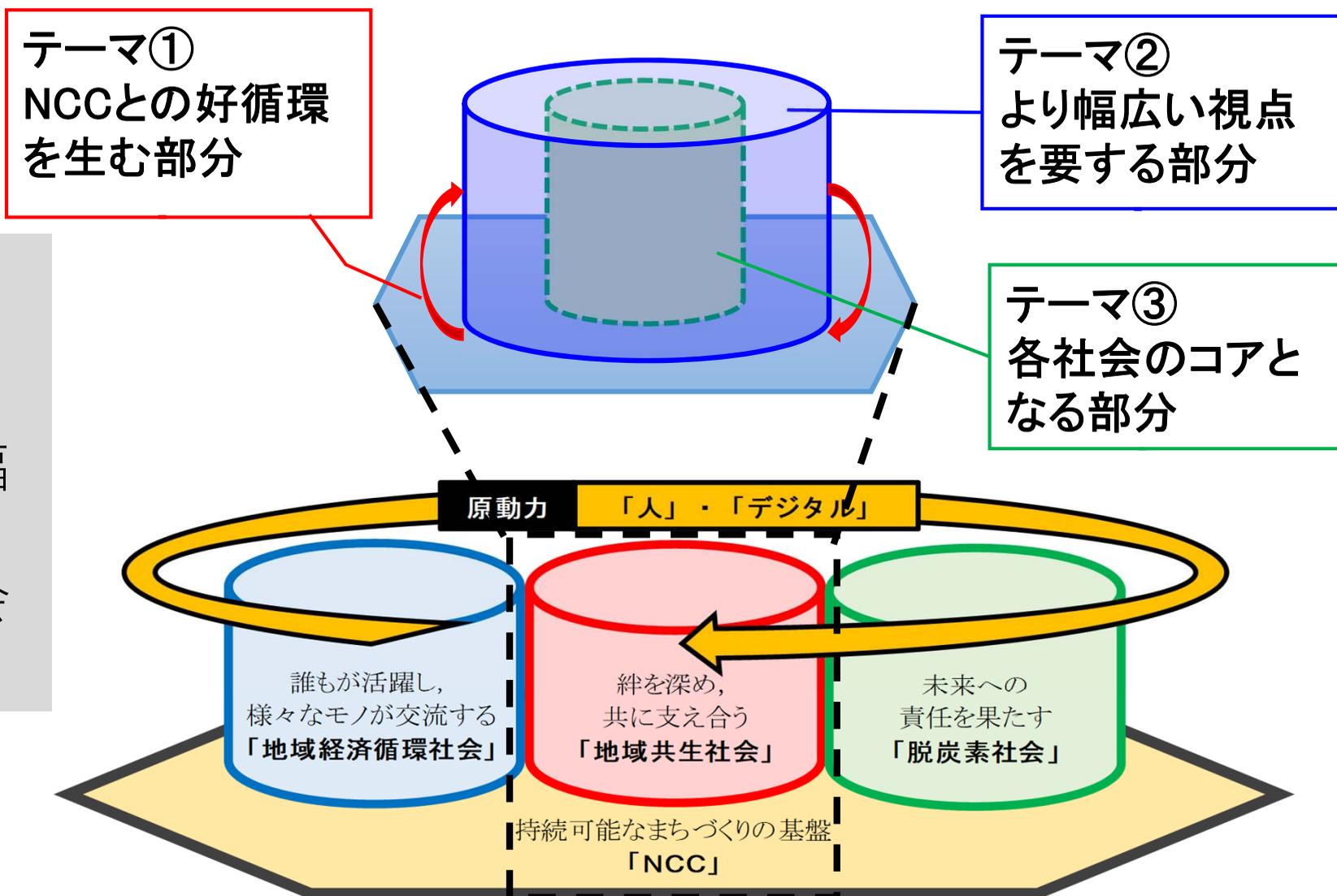
- 改定基本計画におけるプロジェクトについては、現計画と同様の位置づけとし、「スーパースマートシティ」を構成する「3つの社会」ごとに構成する。
- プロジェクトごとに、分野横断的な視点を要する3程度の「取組テーマ」を設定し、「取組テーマ」ごとに具体的な施策をまとめていく。

## 2. プロジェクトの構築について

### ○ 「取組テーマ導出のコンセプト」について

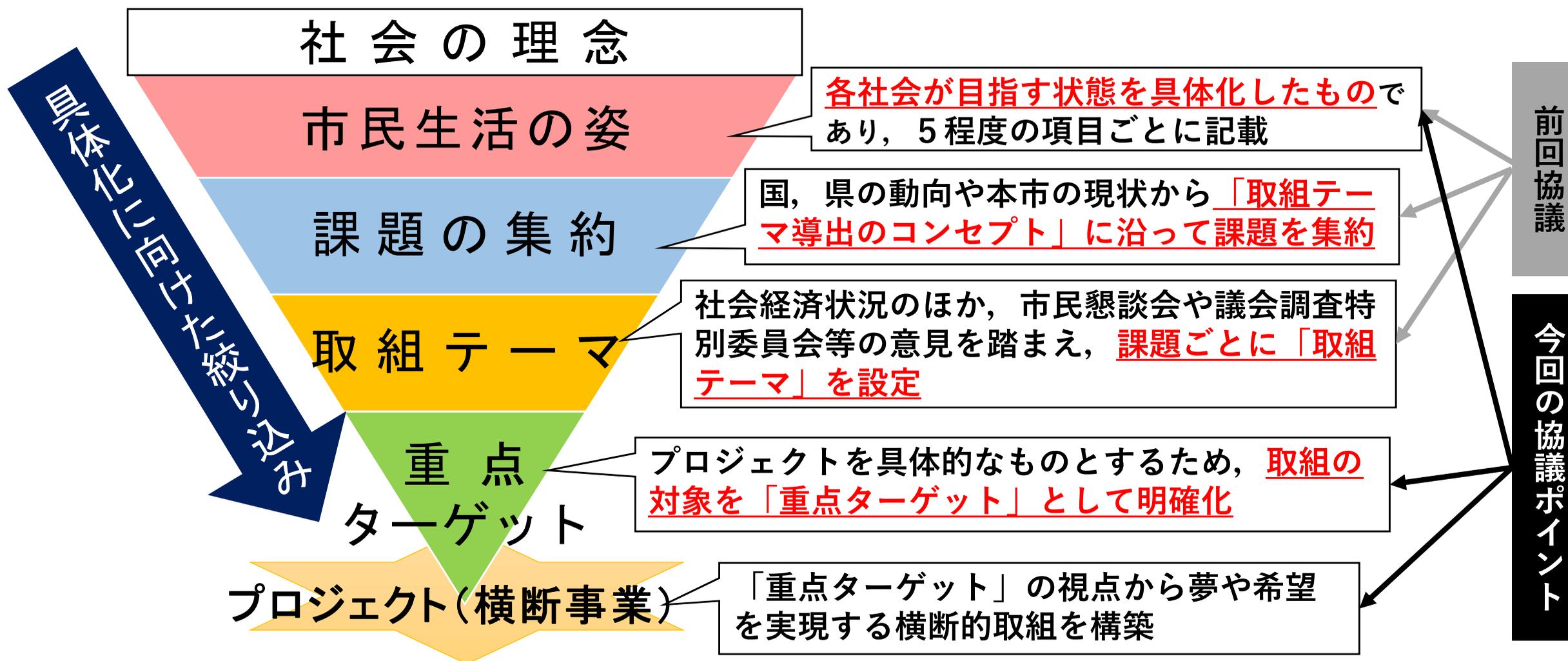
#### ■ 取組テーマ導出のコンセプト

- ① SSCの基盤となるNCCと連携した取組テーマ
- ② 横断的テーマのうち、より幅広い視点を要するテーマ
- ③ 横断的テーマのうち、各社会のコアとなるテーマ



## 2. プロジェクトの構築について

- プロジェクトは「スーパースマートシティ」の実現を目指す取組として、市民が将来に夢や希望を持つことができるものとする。
- また、取組が一般的・抽象的なものになることを避けるため、テーマやターゲットの絞り込みを行いながら、より具体的な内容としていく。



## ○ 「取組テーマ導出のコンセプト」に沿った課題の整理

### ① 個人の属性にかかわらず，誰もがつながることができる環境づくり

- 子ども・子育て家庭から高齢者，障がい者，外国人など，個人の属性や世代などにかかわらず，つながり，絆を育むことができ，支え合える環境づくりが必要

### ② 市民，事業者，団体など，多様な主体が参画した担い手づくり

- 人口減少を背景にあらゆる分野で担い手が減少する中，民間事業者や市外在住者など，これまで地域づくりの担い手となっていなかった新たな主体の参画・育成が必要

### ③ 複雑化・多様化する問題を丸ごと受け止められる体制づくり

- 8050問題など，分野ごとの制度を超えた問題の複雑化・複合化が顕著となっており，早い段階で問題を発見し，身近な地域で相談を丸ごと受け止められる体制づくりが必要

# 【参考】取組テーマ等の導出について 詳細は別紙1

## ○ 整理した3つの「取組テーマ」

### 取組テーマ① 地域共生の「場」づくり

- まちなかや各拠点，さらにはオンライン空間など，多様な場所に多世代が交流できる「場」があり，誰もが時に学び合い，支え合える環境があることで，子どもや若者が置かれた環境に左右されることなく，夢や希望を持つことができるまちづくりを進める。

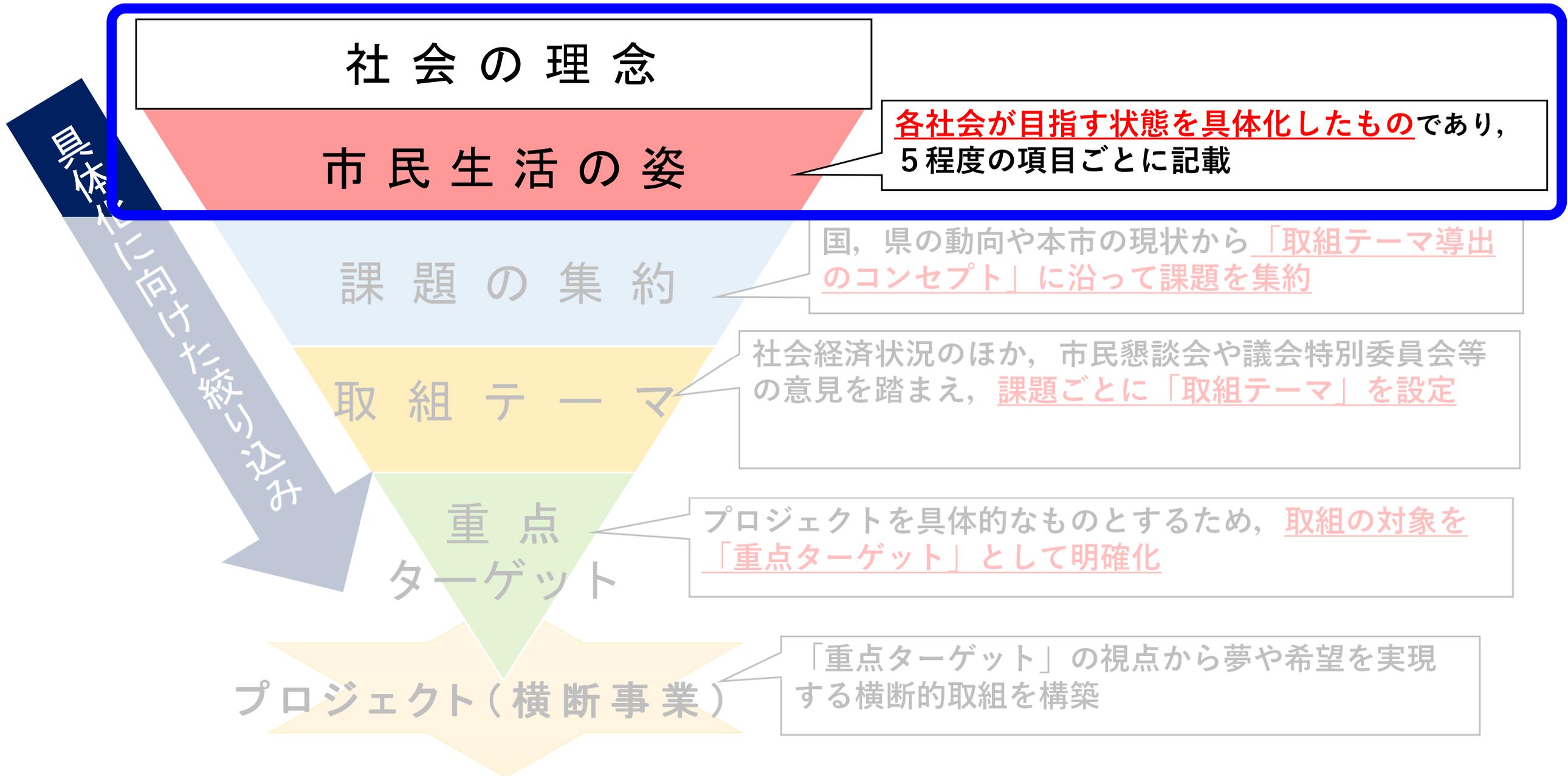
### 取組テーマ② 地域共生の「人」づくり

- 地域課題の解決に対し，民間企業の参画や関係人口の拡大による地域外の人材の参画など，新たな担い手の参画が促進され，地域住民や大学・NPO等の地域の担い手と連携した多様な主体によるまちづくりを進める。

### 取組テーマ③ 地域共生の「仕組み」づくり

- 様々な不安を抱える個人や家庭のニーズに対応していくことができるよう，本人や世帯の属性にかかわらず受け止める体制づくりや，既存制度の狭間にある課題の解決を図るなど，関係機関が分野を超えて連携し，誰もが安心して暮らしていけるまちづくりを目指す。

### 3. 地域共生社会における「市民生活の姿」の構築について



### 3. 地域共生社会における「市民生活の姿」の構築について

#### ○ 基本的な考え方

- 現在改定基本計画策定方針で掲げる「3つの社会の理念」は、抽象的な内容であることから、プロジェクトが目指す社会の姿として、より具体化した「社会像」を構築する。
- スーパースマートシティ実現の目的は市民の豊かな生活（Well-Being）の実現であることから、「社会像」は市民の生活に焦点を当てた「市民生活の姿」として構築し、「身体的状態」、「心理的状态」、「社会的関係」、  
「生活環境」の4つの領域（※）で整理を行う。

※ 世界保健機関（WHO）が定めた、「生活の質（QOL:Quality of life）」の測定・評価を行う4領域

#### ○ 「市民生活の姿」の構築

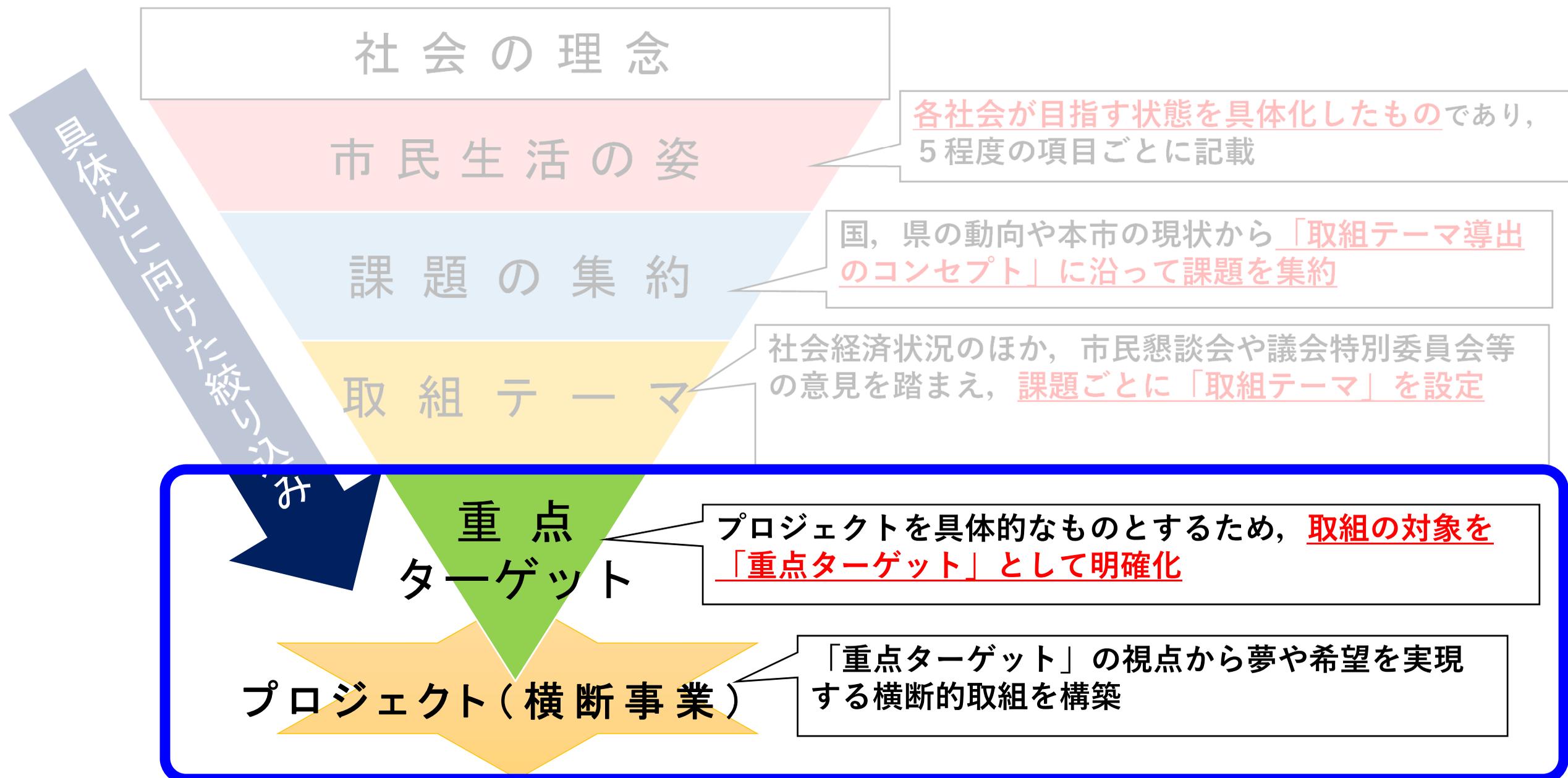
- 4つの領域それぞれにおいて、別紙1で整理した社会の考え方や現状などから、生活の姿として盛り込むキーワードの抽出を行う。
- 抽出したキーワードを盛り込みながら、市民目線からの親しみやすい表現により、「市民生活の姿」を構築する。

# 3. 地域共生社会における「市民生活の姿」の構築について

領域	項目	関連するキーワード	地域共生社会における市民生活の姿
① 身体的領域	日常生活動作／医薬品と医療への依存／活力と疲労／移動能力／痛みと不快／睡眠と休養／仕事の能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立している</li> <li>・元氣，いきいきとしている（健康，活力）</li> <li>・活躍している（仕事ができる）</li> </ul>	① 誰もが生きがいを持ち，元氣でいきいきとしながら，それぞれの希望に沿って，能力を最大限に発揮しています。
② 心理的領域	ボディ・イメージ／否定的感情／肯定的感情／自己評価／精神性・宗教・信念／思考・学習・記憶・集中力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不安なく，安心している</li> <li>・自分らしい，自分を認めている</li> <li>・我が事意識を持つ</li> <li>・学ぶ，理解している</li> </ul>	② 誰もが年齢や性別，国籍，障がいの有無などの多様性を認め合い，自分らしく安心して暮らしています。
③ 社会的関係	人間関係／社会的支え	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つながり，絆が育まれる</li> <li>・支え合っている</li> <li>・社会に参画している</li> </ul>	③ 地域住民同士が交流を深めるとともに，多様な主体が地域づくりに参画することで，人と人がつながり，支え合える絆が育まれています。
④ 生活環境領域	金銭関係／自由・安全と治安／健康と社会的ケア：利用のしやすさと質／居住環境／新しい情報・技術の獲得の機会／余暇活動への参加と機会／生活圏の環境／交通手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用や経済が安定している</li> <li>・安全に生活している</li> <li>・医療，介護等サービスが利用できる</li> <li>・快適な住宅，生活環境がある</li> <li>・移動しやすい環境がある</li> <li>・情報を入手できる</li> </ul>	④ 誰もが抱える様々な不安が丸ごと受け止められており，その解決に向けた必要な支援が受けられています。 ⑤ 誰もが住みたい場所に住み続けながら，行きたい場所に行けるなど，ライフステージや生活スタイルに応じた多様な暮らし方を選択できています。

※ 4領域のうち，「生活環境領域」については，多様な分野が含まれているため2分割して生活の姿を描く 16

# 4. プロジェクト全体像の作成について



## 4. プロジェクト全体像の作成について

### ○ 重点ターゲットの設定

- プロジェクトが一つの横断的取組として具体的なものとなるよう、取組の対象を「重点ターゲット」として明確化する。
- 「重点ターゲット」は、改定基本計画の策定に向けて捉えるべき重点課題（※）や各「取組テーマ」の趣旨を踏まえるとともに、令和3年度の市民懇談会や議会調査特別委員会等における意見を参考としながら設定する。

※ 「人口減少・少子超高齢化の深刻化」，「市民の豊かな生活を実現する官民と連携したDXの推進」，「脱炭素社会構築に向けた要請」，「新型コロナウイルス感染症による人々の価値観の変容への対応」の4点（詳細は次頁参照）

# 【参考】改定に向けて捉えるべき重点課題（策定方針より抜粋）

## ◆人口減少・少子超高齢化の深刻化

- 本市では、全国を上回るペースで少子化が進行するとともに、高齢化率は今後も上昇を続け、2025年頃には団塊の世代が後期高齢者になることから、これまで以上に少子化対策や高齢化に対応したまちづくりを強化する必要がある。

## ◆市民の豊かな生活を実現する官民と連携したDXの推進

- 本市においては、最先端の技術を活用したスマートなまちづくりを進めてきたところであり、引き続き、誰もがデジタル技術の恩恵を享受しながら豊かな生活を実現できる全国モデルとなるスマートシティの実現に向け、官民が連携したDXを進める必要がある。

## ◆脱炭素社会構築に向けた要請

- 国際社会共通の目標であるSDGsへの貢献や地球温暖化を起因とする自然災害の激甚化に対し、国際社会の一員としての本市の責任を果たしていくため、「カーボンニュートラル」の達成に資する取組を強力に推進していく必要がある。

## ◆新型コロナウイルス感染症による人々の価値観の変容への対応

- テレワークの実施やオンラインを利用したコミュニケーションの推進などの「新しい生活様式」への転換、若者の地方移住への関心の高まりなど、人と人のつながり方や価値観の変化が加速化しており、それらに速やかに対応していく必要がある。

# 4. プロジェクト全体像の作成について

## 取組テーマ① 地域共生の「場」づくり

取組テーマの内容	まちなかや各拠点，さらにはオンライン空間など，多様な場所に多世代が交流できる「場」があり，誰もが時に学び合い，支え合える環境があることで，子どもや若者が置かれた環境に左右されることなく，夢や希望を持つことができるまちづくりを進める。
横断的取組のイメージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>子どもを中心に</u>多世代が交流し，支え合える <u>多様な「場」を構築</u></li> <li>・ <u>子どもや若者が，将来に夢や希望を持つことができる環境づくりや支援</u>を推進</li> </ul>
市民懇談会等における意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NPOと連携して<u>子どもたち</u>への支援の幅を広げることが必要</li> <li>・ <u>高校生たちや高齢者</u>と一緒に過ごし，様々な活動が展開できる場所が必要</li> <li>・ <u>子ども・若者</u>が，家庭や学校以外での対人関係の中で社会性や豊かな人間性を育み，支援を求められる居場所が必要</li> <li>・ <u>学校に居場所を感じられない子供や親</u>などに対し，学校以外のコミュニティを構築し，多様な居場所を整えることが必要</li> </ul>


**子どもや若者**を重点ターゲットとし，地域資源を活用した多様な「場」づくりや，多世代との交流を通じた子どもや若者の夢や希望の実現に向けた支援を推進

# 4. プロジェクト全体像の作成について

## 取組テーマ② 地域共生の「人」づくり

取組テーマの内容	地域課題の解決に対し、民間企業の参画や関係人口の拡大による地域外の人材の参画など、新たな担い手の参画が促進され、地域住民や大学・NPO等の地域の担い手と連携した多様な主体によるまちづくりを進める。
横断的取組のイメージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生や大学生，市外転出者など，<u>本市に関わりのある若年層の地域参画を促進</u></li> <li>地域課題の解決を目指す <u>民間企業や団体等がまちづくりに参入しやすい環境づくり</u>を推進</li> </ul>
市民懇談会等における意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政や地域と大学が連携し，<u>様々な分野で活躍できる人材</u>育成・確保に努めていくことが必要</li> <li><u>企業の若い職員や転勤に伴い転居してきた市民</u>等の人的資源を活用できる仕組みの構築が必要</li> <li><u>市外の人</u>が宇都宮のまちづくりに参画するための仲間づくりができる環境が必要</li> <li><u>高齢者</u>が仕事やボランティアなどに参加しやすい仕組みの構築が必要</li> <li><u>幅広い年齢層</u>をまちづくりや地域づくり活動に参加させる仕組みや環境整備が必要</li> <li>地域のコミュニティづくりには<u>行政と企業</u>の連携が必要</li> </ul>


 民間企業や市外転出者などの新たな担い手を重点ターゲットとし、これらの方々がより一層本市のまちづくりに参画しやすい環境づくりを推進

# 4. プロジェクト全体像の作成について

## 取組テーマ③ 地域共生の「仕組み」づくり

取組テーマの内容	様々な不安を抱える個人や家庭のニーズに対応していくことができるよう、本人や世帯の属性にかかわらず受け止める体制づくりや、既存制度の狭間にある課題の解決を図るなど、関係機関が分野を超えて連携し、誰もが安心して暮らしていけるまちづくりを目指す。
横断的取組のイメージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヤングケアラー，8050問題など，<u>複雑化する不安や悩みを受け止める体制づくり</u></li> <li>・ <u>「支える側」，「支えられる側」という枠組みを越えて支え合える環境づくり</u></li> </ul>
市民懇談会等における意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>ヤングケアラー等支援が必要にもかかわらず，見えづらい子ども</u>に対しては，必要な情報を発信し続ける必要</li> <li>・ <u>孤独・孤立</u>やヤングケアラーの問題は，保健・福祉分野にとどまらず，日常生活の安心感を高めるという観点からも重要</li> <li>・ 相談窓口の一本化や個々のケースに応じた支援のコーディネートなど，<u>総合的な相談体制の充実</u>が必要</li> <li>・ 支援に関わる民間団体等との連携を強化し，<u>本人や家族の状況に応じた重層的な支援</u>につなげる仕組みづくりが必要</li> <li>・ 相談だけではなく，その先の<u>地域づくりなどの視点を持った取組</u>が必要</li> </ul>


 生活に不安を抱える個人や家庭を重点ターゲットとし，抱える不安を丸ごと受け止める体制づくりや，支える側として活躍できる環境づくりを推進

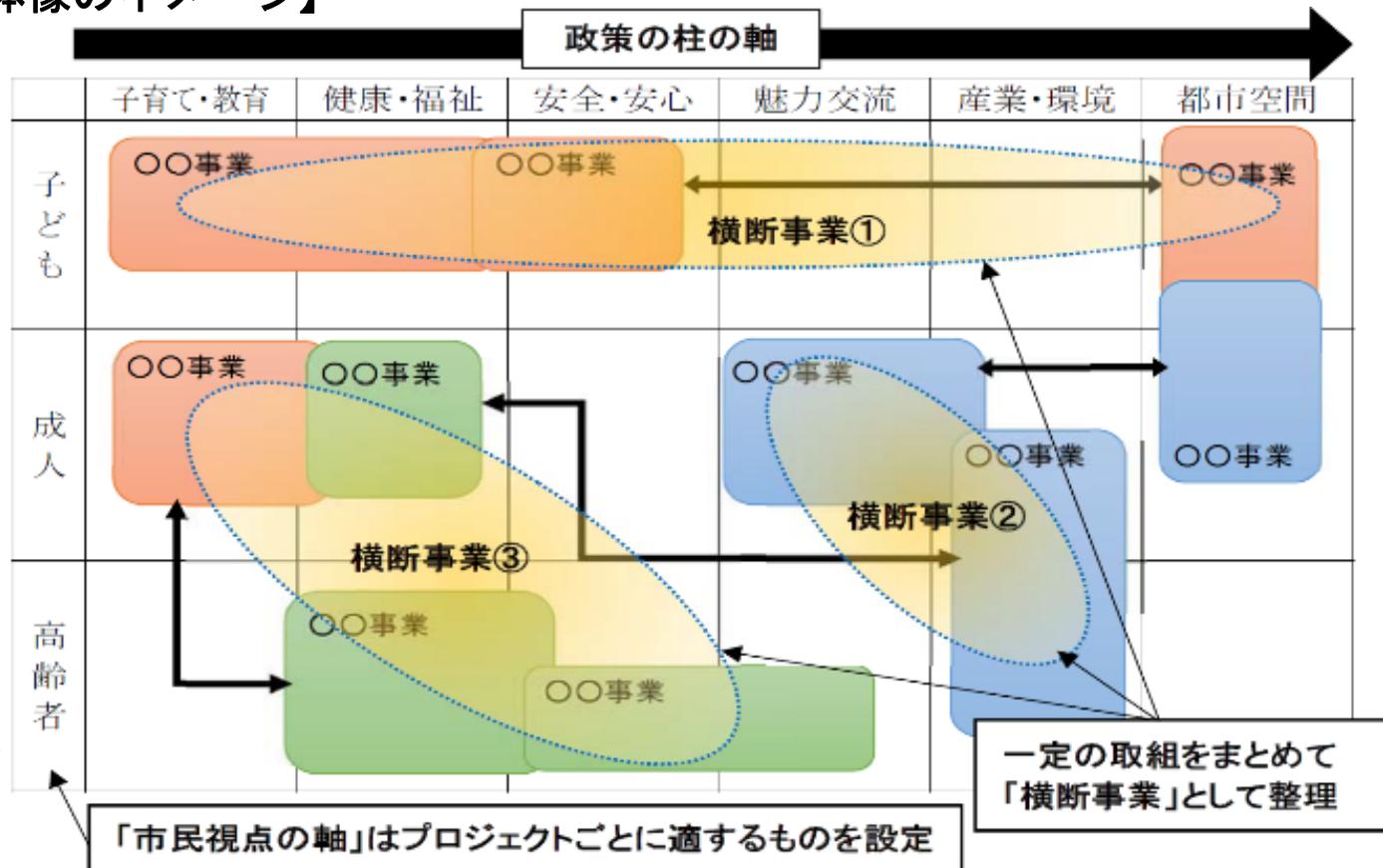
# 4. プロジェクト全体像の作成について

詳細は別紙2

## ○ 基本的な考え方

- プロジェクトは多様な分野や主体などが総力をあげて取り組む施策群であるため、**「6つの未来都市（政策の柱）の軸」と、プロジェクトごとに設定した「市民視点の軸」**の2つの軸から関連する取組を整理
- 「取組テーマ」ごとに既存・新規事業の整理を行いながら、**複数分野の連携により相乗効果が期待できる取組をパッケージし、計画期間中に実現を目指す「横断事業」として構築し、分かりやすくストーリー化**

【全体像のイメージ】



【ストーリー化のイメージ】



# 4. プロジェクト全体像の作成について

詳細は別紙 2

## ○ 「市民視点の軸」の設定について

- プロジェクトにおいて、乳幼児の段階における子育て家庭支援から、就学・就業を経た高齢期まで、生きがいを持ちながら、安心して暮らせる環境づくりなど、誰もが支え合える社会を目指す取組を位置付けられるよう、厚生労働省「健康日本21」が示すライフステージを参考に、「幼年期」、「青少年期」、「成人期」、「高齢期」の4つの区分を「市民視点の軸」とする。



厚生労働省：地域共生社会のポータルサイトより

## ■ ライフステージの区分について

	健康日本21	地域共生社会創出プロジェクト
ライフステージ	幼年期 (0～4歳)	幼年期 (0～4歳)
	少年期 (5～14歳)	青少年期 (5～24歳)
	青年期 (15～24歳)	
	壮年期 (25～44歳)	成人期 (25～64歳)
	中年期 (45～64歳)	
	高齢期 (65歳以上)	高齢期 (65歳以上)

### 取組テーマ① 地域共生の「場」づくり

まちなかや各拠点，さらにはオンライン空間など，多様な場所に多世代が交流できる「場」があり，誰もが時に学び合い，支え合える環境があることで，子どもや若者が置かれた環境に左右されることなく，夢や希望を持つことができるまちづくりを進める。

#### ● 重点ターゲット・・・ 子どもや若者

#### <横断事業>

#### ● 子どもが必要な学びや体験を得られる環境づくり

- ▶ 子どもが家庭や学校以外の場所で，デジタル技術を活用しながら，学びや体験の機会を得ることができるよう，市全体で子どもの夢の実現を支援する。

#### ● 地域資源や地域特性を生かした交流の場づくり

- ▶ プロスポーツ，文化・芸術等の地域資源や，地域特性を生かした交流空間づくりなどの取組を通じた市民交流の促進により，「チーム宇都宮」としての地域への愛着や絆づくりを推進する。

### 取組テーマ② 地域共生の「人」づくり

地域課題の解決に対し、民間企業の参画や関係人口の拡大による地域外の人材の参画など、**新たな担い手**の参画が促進され、地域住民や大学・NPO等の地域の担い手と連携した多様な主体によるまちづくりを進める。

#### ● 重点ターゲット・・・ **新たな担い手**

#### <横断事業>

##### ● 若年層の地域参加促進

➤ **新たな担い手を確保・育成**することができるよう、本市のまちづくりに関心のある若者の移住促進や、子育て家庭がゆとりを持てる環境づくりを推進する。

##### ● 地域課題解決に向けた新たな価値の創出

➤ 大学や市内企業と連携した事業創出支援や、スタートアップへの支援などにより、民間企業等における**社会課題の解決を通じた新たな価値の創出を促進**する。

## 取組テーマ③ 地域共生の「仕組み」づくり

様々な不安を抱える個人や家庭のニーズに対応していくことができるよう、本人や世帯の属性にかかわらず受け止める体制づくりや、既存制度の狭間にある課題の解決を図るなど、関係機関が分野を超えて連携し、誰もが安心して暮らしていけるまちづくりを目指す。

### ● 重点ターゲット・・・ 不安を抱える個人や家庭

#### <横断事業>

- 市民の困りごとを丸ごと受け止める体制づくり
  - 多様な支援機関が連携を深め、市民個人や家庭が抱える 様々な課題を丸ごと受け止め、支えられる体制を構築する。
- 元気な高齢者が活躍しやすい環境づくり
  - 「人生100時代」において、高齢者がいつまでも元気でいられるとともに、自らの希望に応じて活躍ができる環境づくりを推進する。

## 5. 今後のスケジュールについて

### ● 今後のスケジュール（予定）

令和4年12月20日	総合計画市民懇談会	全体会
下旬～	パブリックコメント	開始
令和5年～1月中旬	パブリックコメント	締切
2月上旬	総合計画市民懇談会	全体会
下旬	改定基本計画の策定	
3月～	計画書冊子デザインの作成	